



七夕の劇 by 集会委員会

星の世界の神様には、おりひめという娘がおりました。おりひめは、神様の言いつけで明けても暮れてもはたを織って、世にも美しい服を作り続けていました。

神はある日、そんなおりひめをかわいそうに思い、おむこさんをもってやることにしました。神様がおむこさんに選んだのは、天の川のほとりで牛の世話をしている働き者のひこぼしという若者でした。

「なんて美しいんだ」

「なんてりりしいのでしょうか」

おりひめとひこぼしは、引き合わされたたとたんにおたがいを好きになりました。

ところが二人は、一緒に暮らすようになると、神様のことなど気かけなくなりました。おりひめは、はたを織ることを忘れ、ひこぼしも牛の世話をほったらかしにして、あれほど大

切にしていた牛は病気になってしまいました。

それを見ていた神様は、

「そんなに遊んでばかりいてどうするのだ。少しはまじめに働くがよい」

と二人に言いましたが、おりひめとひこぼしは耳をかそうともしません。神様はおこって二人を引き離してしまいました。

ひこぼしに会えなくなったおりひめは、はたも織らないで、泣き暮らすばかり。

「ひこぼしさんに会いたいわ」

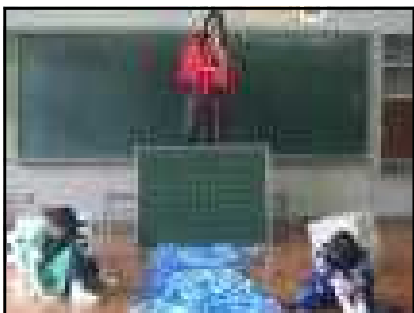
ひこぼしも牛の世話をせずに、おりひめのことばかり考えていました。

「おりひめさんに会いたいな」

困り果てた神様は、二人にこう言い渡したのです。

「しかたがない、お前たちがもとどおりに働けば、年に一度、7月7日だけ会えるようにしてやろう」

その言葉に、おりひめとひこぼしは心を入れ替えると、一生懸命働き始めました。



やがて待ちに待った日が訪れました。おりひめとひこぼしは、それぞれの川岸にかけよります。しかし、広い天の川をどうやって渡ったらよいのでしょうか。二人がうろたえているとカササギの群れが、川の上に橋をかけてくれたのでした。

空を見上げてごらん下さい。天の川の右と左に強くきらめく2つの星がおりひめとひこぼしです。おりひめは**こと座のベガ**ひこぼしは**わし座のアルタイル**という名前と呼ばれています。



〈劇の配役等〉

ナレーション … T・Y(6年)

おりひめ …… O・A(4年)

ひこぼし …… K・M(5年)

神様 …… I・H(5年)

脚本・編集 …… Y・A 先生

監督・演出 …… S・T 先生

〈司会等〉

K・M(5年)

T・M(5年)

〈クイズ係〉

A・K(4年) S・R(4年)

K・H(5年) T・M(5年)

S・R(6年) S・K(6年)

〜~~~~~
〈クイズの答え〉 ①7月7日 ②カササギ ③ベガとアルタイル ④5色